

# 若者の力は無限大

# 学生たちの まちづくり

市内には6つの高校に加えて、大学、短期大学校があり、阿賀北地域など、市外から多くの学生たちが集い、学んでいます。また、農業・商業・工業など学べる分野も多様で、学びの場が整っていることも新発田の魅力の一ひとつです。

学生たちは、学校生活を通じて「新発田のまち」とどのように関わり、活動しているのでしょうか。学生たちのさまざまな取組と地域への思いを紹介します。



**西新発田高等学校**

定時制普通科 全日制普通科（3年生のみ）



**新発田高等学校**

理数科 普通科



**新発田農業高等学校**

農業科 生物資源科  
環境学科 食品科学科



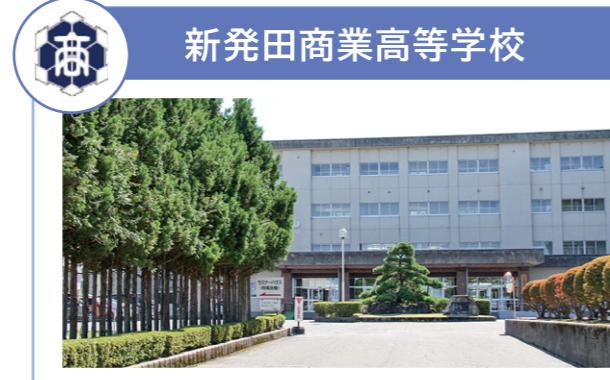
**新発田中央高等学校**

普通科進学コース 普通科総合コース



**新発田南高等学校**

普通科 工業科



**新発田商業高等学校**

商業科 情報処理科



**敬和学園大学**

国際文化学科 共生社会学科  
英語文化コミュニケーション学科

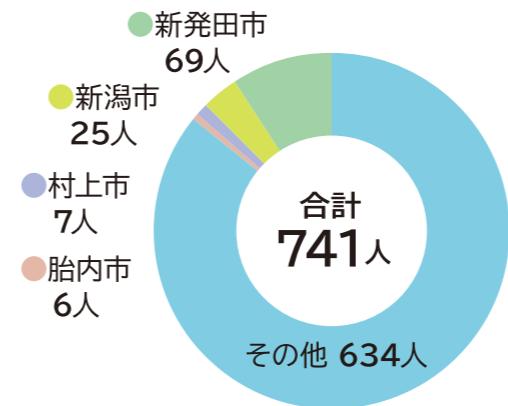


**新潟職業能力開発短期大学校**

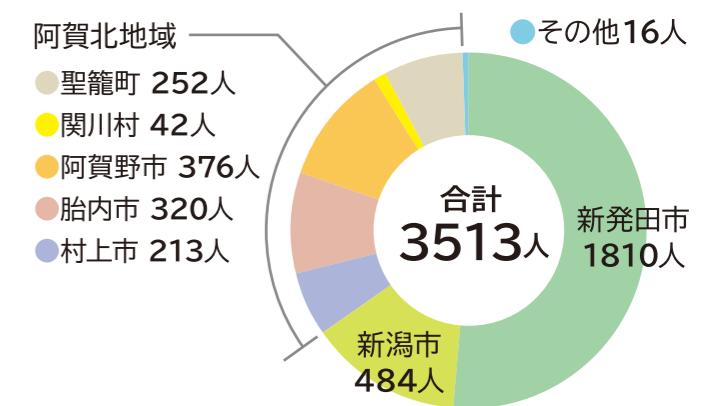
生産技術科 電気エネルギー制御科  
電子情報技術科 住居環境科



大学・短期大学校 市町村別学生数



高校 市町村別生徒数



※令和元年10月1日現在の数値です。

## 福祉 貢献

### 新発田中央高等学校



伝統のチャリティー・キャンペーンで  
社会の役に立ちたい

新発田中央高校では、「社会の役に立ちたい」という精神のもと、昭和56年からチャリティー・キャンペーンを開催しています。吹奏楽部の演奏発表や被服部によるバザーなど、日頃の部活動の成果をもとに得た収益金を市などに寄附しています。これまでの寄附金総額は1600万円にものぼり、長年にわたり地域の社会福祉に役立てられてきました。

## 地元企業を 知る

### 新発田南高等学校

#### 就業体験研修「インターンシップ」 企業を知ることが、将来まちの力になる

新発田南高校では、「地元企業が抱える課題解決を通じて、地元企業を知ること」を目的に、インターンシップを行っています。県外に進学・就職する生徒が多い中、高校時代に地元企業と関わりを持ち、その魅力を知ることで、進路を考える際に「育ったまちで働く」という選択肢が加わるきっかけになるかもしれません。将来的に、新発田で働く人材を増やす効果が期待できる取組です。



#### 地域の声

新発田南高校の生徒からは、「働きやすい職場環境」という課題の解決策について提案してもらいました。正直、しっかりと意見を持っていることに驚き、提案内容は今も我が社で生かされています。また、高校生と接して、彼らの思いを聞けたことで、高卒の社員の人員配置の際にさまざまな配慮をすることもできました。インターンシップの受け入れは、これらのメリットがあると同時に、高校生に地元企業をPRする良い機会となっています。

(株)マルコ岩村  
樋熊 学さん



### 新発田農業高等学校

地域の人とのつながりは  
貴重な教材

販売活動は少し緊張しますが、自分たちが時間をかけて一生懸命作った農作物を直接届けられる機会なので、楽しみにしています。「美味しかったよ」「また来てね」と言われると、とてもうれしく、やりがいを感じます。また、地域の皆さんには私たち高校生の活動を温かく見守り、いつも優しく受け入れてくれます。将来は、地域に恩返しできるような仕事をしたいと思っています。



【生物資源科3年】  
山田 祥央さん 吉田 麻衣さん 成田 はるかさん

#### 地域の声

十年以上インターンシップの受け入れをしていますが、新発田農業高校の生徒は前向きで、農業に意欲的に取り組んでいます。インターンシップでは、直接生産者から経営の難しさや農業がいかに生活に直結しているかなどを聞き、学校では得られない貴重な経験を積むことができます。新発田で農業を学んだ生徒が1人でも多く、農業に関わる仕事に就いてくれたらうれしいです。そのためには、地域全体で協力して生徒たちを育てていく必要があると思っています。



(有)ビレッジおかだ  
今井 延子さん

# 特產品 開発

## 新発田商業高等学校

### 新発田ブランド認証商品も誕生! 地元の特産品を使って新たな商品開発

新発田商業高校では、10年以上前から地元の菓子店などと共同で、新発田の特産品を使った商品開発に取り組んでいます。新発田ブランド認証商品に選ばれる逸品まで登場し、毎年趣向を凝らした商品を開発して、いろいろなイベントで生徒たちが自ら販売しています。地元業者の力を借りながら、学校での学びを形にする活動は、地域資源を活用した産業の活性化につながっています。

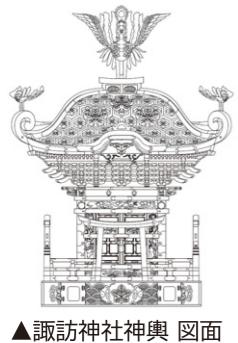


# 伝統文化の 継承

## 新潟職業能力開発短期大学校

### 市の文化財指定に貢献! 自慢の技術力が歴史と融合!

平成30年度に市の有形文化財に指定された諏訪神社の2基の神輿。住居環境科では、文化財指定に必要な資料として、神輿の計測調査を行い、最先端技術を駆使して、精度の高い図面を作成しました。現在も、市民団体から依頼を受け、歴史的建造物の調査に協力しています。



# 人 づくり

## 新発田高等学校

### 「人づくり」で地域の期待に応えたい!

新発田高校では、小・中学生に数学や科学のおもしろさを伝える体験授業「サイエンスラボ」を毎年開催しています。文化祭でも同様の教室を開催していて、いっしょに楽しみながら後輩を育てる取組です。

理数科には、今年度から医学・医療分野で活躍できる人材を育成することを目的に、メディカルコースが新設されました。同校の生徒はもちろん、体験授業を通じて数学や科学に興味を持った小・中学生が、将来地域医療を担う人材として成長してくれることが期待されます。

数学や科学が苦手な人にとって、理数科は近づきがたい学科かもしれません、小・中学生はもちろん、地域の方にもっと私たちが学んでいることのおもしろさや意義を知って、身近に感じてもらいたいです。そういう意味で、サイエンスラボや文化祭でのイベントはとても大切にしています。

将来は、地域や世界に貢献できる仕事に就き、後輩たちの手本になりたいと思っています。



# きれいな まちづくり

## 西新発田高等学校

### 清掃ボランティアで 地域をもっと身近に

西新発田高校は、平成30年度から単位制による定期制課程（普通科）の高校として新たなスタートを切りました。一人ひとりの個性や生活スタイルに合わせて、じっくりと着実に学ぶことができ、生徒の自主性が尊重されています。「地域とともにある高校」を目指し、学校周辺や新発田城の清掃ボランティアなどをを行うことで、地域の美化活動にも積極的に取り組んでいます。



## きっとまちの力になる! 進めよう! 若者によるまちづくり

若者たちが新発田で大切な学生時代を過ごす。このことは、まちづくりにおいて、大きな効果をもたらしています。まちづくりの重要なパートナーとして、学生を中心とした“若者の力”が地域で発揮されれば、まちの活性化につながるのではないかでしょうか。

まちに学生の姿があふれ、まちづくりについて語り合えるよう、市でも環境づくりを進め、“新発田の宝”である若い世代の取組を応援していきます。

### 若者のアイデアが新発田のまちづくりに!

#### ドラフト会議 for Youth



市内の高校、大学、短期大学校に通う学生たちが、「地域」や「身近な生活」の中にある課題を見つけ、その解決に向け、若者独自の柔軟な発想を生かしたアイデアを市に提案する「ドラフト会議 for Youth」。昨年度は5校6グループが参加し、市長のほか地元民間企業の方などに提案・発表を行いました。

まちづくりに有効な提案があれば、採用される可能性もあり、若者ならではの視点が、これからまちを変えていくかもしれません。



昨年度の  
提案の一  
つ

#### 中心市街地活性化計画

新発田南高等学校 工業科（建築工学科）

商店街の建物の現況調査を行い、有効活用できそうな建物や既存施設の再生方法について提案しました。

商店街の空き家を宿泊施設にしたり、店舗の2・3階にカフェスペースを設けたりするなど、人の流れを重視した提案は、図面だけでなく立体模型を作ったことで、とてもわかりやすく、建築分野を学ぶ学生の専門技術が生かされた発表でした。



敬和学園大学

地域と  
つながる

#### ビブリオバトル



#### イクネスしばたや中央図書館と連携! 「地域に開かれた大学」を目指して

敬和学園大学では、人と人をつなぐ場を作り、大学で学んだことを地域に広める活動に力を入れています。大学の学生寮が新発田駅前複合施設「イクネスしばた」民間棟にあるという立地を生かし、寮生を中心に、地域の人とのつながりを大切にしたさまざまな取組を行っています。

#### ■ ビブリオバトル

おすすめの本を紹介し合い、読みたくなかった本を投票で決める知的書評合戦「ビブリオバトル」。当市では3年前からイクネスしばたを会場に、同大学の図書サークル「ライブリオ」の学生たちが、新発田市立図書館利用者友の会と協力して開催しています。

「本」という媒体を通じて、さまざまな世代の人が集まり語り合える場を作り出しています。

本好きの人の輪を広げたいという思いで始めたサークル活動ですが、世代の異なる方との交流で知識や視野が広がっただけでなく、地域の中に溶け込み、地域の役に立てているという実感を得られたことが最大の収穫でした。

私はJスクールにもボランティアとして参加した経験がありますが、子どもたちに喜んでもらえて、国際感覚を身近に感じられる貴重な経験だと思っています。これからも地域の方と交流できる場を作っていくみたいです。



図書サークル「ライブリオ」のメンバー  
高橋 沙夜さん  
(国際文化学科2年)

#### ■ Jスクール・10代の居場所カフェ

日本語を母国語としない小・中学生の学習や生活を支援する「Jスクール」。10代の子どもや若者なら誰でも気軽に立ち寄り、お茶を飲みながら雑談をしたり、悩みを相談したりできる「10代の居場所カフェ」。いずれも敬和学園大学の寮生がボランティアで参加していて、おおぜいの子どもたちが、大学生と話をしたり遊んだりすることを楽しみに通ってきます。

年齢の近い大学生が、身近な存在として地域の子どもたちを見守り支える取組です。

